

## 第三者評価結果報告書

《総括》	
対象事業所名	千丸台保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人 長幼会
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒240-0053 横浜市保土ヶ谷区新井町 356-3
設立年月日	平成 17 年 4 月 1 日
評価実施期間	平成 27 年 10 月 ~ 28 年 2 月
公表年月	平成 28 年 3 月
評価機関名	株式会社 <b>R-CORPORATION</b>
評価項目	横浜市版

### 総合評価

#### ●千丸台保育園の立地・概要

千丸台保育園は、昭和40年7月に横浜市千丸台保育園として開園された歴史ある保育園であり、平成16年9月、横浜市の保育所民営化施策に伴い、社会福祉法人長幼会が千丸台保育園の運営を受け継ぎました。平成17年4月の開所後、6年間は移管検討委員会が設けられ、市立時代からの在園児に不利益が無いよう運営に努め、以降は、社会福祉法人長幼会（以下、法人本部）の独自性、特徴を加味した運営により、市立時代の特徴をも生かした新しい園の環境を形成しています。

千丸台保育園は、相鉄線西谷駅から北に約2キロの所に位置し、地形的に谷戸に形成されており、道路沿いの左右の丘には住戸が立ち並び、昭和38年建立された県営千丸台団地の周辺は開発が進み、ファミリーマンションも建ち、若い世代の流入が見られる地域です。千丸台保育園は、県営千丸台団地の入口付近に位置し、大きなイチョウ並木と桜並木が美しい四季折々の豊かな自然に囲まれ、広い園庭は開放感溢れ、恵まれた環境にあります。

園舎はゆとりある平屋建てで、広い園庭とプールの設備が整っています。園舎内は、玄関を入れて左手に事務室兼保健室があり、左奥は乳児保育室（0歳～2歳児）となっており、園庭と少し離れてテラスが設けられ小さな子どもの安全が確保されています。玄関の両サイドには幼児保育室（右3歳児、左4歳・5歳児）が配置され、玄関を入れて右奥には広い多目的ホールがあり、北側に調理室が設けられています。ホールは隣の3歳児保育室との間のパーテーションを外すことでより広く使用することが可能となっており、異年齢で共同「リズム」などに有効に活用しています。各保育室は廊下でつながっている構造ですが、登降園は園庭側から保護者が直接保育室に行くことができる体制になっており、それぞれの保育室から挨拶の声が通い合います。通園する子どもたちは、少し広域にわたり旭区在住、緑区在住、保土ヶ谷区の子どもたちが通園し、現在、定員は98名で運営しています。地域との関係は深く、県営千丸台団地の自治会のバックアップをいただき、千丸台商店街や郵便局と良好に交流が図られ、近隣の小学校とも深い交流を持ち、小学校の畑などを借用して食育活動につなげています。千丸台保育園の子ども

私たちは、地域の恩恵を受け、豊かに育まれています。

### ●千丸台保育園の保育の方針

法人本部が運営する保育施設では、病院が同じ地域に集結して相互交流を図っている「すくすく保育園」、横浜駅前のビル3階にある都市型の「横浜みなとみらい保育園」、そして公立保育園からの移管園がここ『千丸台保育園』と、川崎市立園から移管された「玉川保育園」を加え、特徴の異なる4園が相互に交流を図り、各園の特徴の良さを吸収し合い、共に前進する良い関係が築けています。千丸台保育園の保育の方針は、「子どもを第一に考え、保育目標を基に人との触れ合いや、いろいろな体験を重ねることにより充実した保育を行なうこと」としています。また、保育士は保護者とのコミュニケーション、保育士間での意見交換を密に行い、子ども一人一人が健康で、日々笑顔で過ごせる支援を心がけています。

### 〈特によいと思う点〉

#### 1. 地域に根ざした保育の推進

千丸台保育園の特徴の1つに、地域密着が挙げられます。県営千丸台団地（昭和38年）と共に歴史を刻んだ千丸台保育園は、当時の若い保護者の子どもたちを預かり、共に歩んだ軌跡があり、その頃の保護者は高齢化し、地域のお年寄りは散歩する子どもたちを見守り、声をかけてくれます。現在、団地の自治会は組織化され、園長は、地域指導交流会などに積極的に参加し、地域のニーズ、要望の把握に努めています。さらに、地域との交流では、近隣区の保育園との交流をしており、互いの行事へ行き来があります。また、保土ヶ谷区の交流行事である私立・公立保育園との「がやっ子フェスタ」の会に参加して交流を深めています。また、上菅田地域ケアプラザにてディサービスの高齢者との交流を図り、千丸台商店街にある郵便局とも長年の交流を持ち、園のお知らせを掲示させてもらい、地域の方々が来園する機会になっています。地域に密着した取り組みは、上手く保育活動に活かされ、子どもたちは地域の方々から温かく見守られ、地域から愛される園につながっています。

#### 2. 自然とのふれあいと食育の充実

千丸台保育園では子どものことを第一に考え、保育目標を基に人との触れ合いやいろいろな体験を重ねる保育を実践しています。園外へ散歩に出かけ、豊かな公園で遊び、菜園活動を積極的に行い、身近に自然と触れ合うことがたくさんできる保育園です。保育園の周りには大きなイチョウと桜並木があり、自然豊かな公園も多く点在し、四季折々に季節を感じることができ、子どもたちは自然の恩恵をたくさん受けています。園では、新井小学校の「ダッシュ畑」を借用して地元の方に畑指導を受け、野菜、芋などの栽培を行い、法人系列の横浜みなとみらい保育園の園児たちを招いて収穫を楽しんでいます。子どもたちで育てた野菜は、栄養士と共にクッキング体験を行い、食への興味と関心につなげ、積極的に食育に取り組んでいます。栄養士は献立作成に際し、安心安全な材料を採用し、旬の食材を用いて季節の味わいを提供し、行事食も取り入れています。楽しい食への工夫と共に、健全な食生活と健康づくりの充実を図っています。

### 3. 園環境の充実に対する取り組み

千丸台保育園では、少し広域に旭区、緑区在住の家庭から保育利用の需要があり、一時保育の利用も増えています。園では現在、園舎の大規模改修、一部増築を計画し、障害者対応や地域対応ができる施設を推進しています。これにより、1～3歳児の定員増と、一時保育・地域への施設開放で専用保育室の設置などが見込まれ、保育収容定員による受け入れ増と、一時保育の充実を図ることができ、更なる地域への貢献が期待されます。サービス設備の向上により、地域の親子にもいろいろな利用の幅が広がることが期待されます。横浜市から移管して10年が経過し、安定した保育園運営に加え、園内の環境整備・充実と共に、地域の子育て支援の拡大の実現を目指して取り組んでいます。

#### 《さらなる改善が望まれる点》

##### 1. 更なる職員の質の向上

千丸台保育園では保育の質の向上と、次世代の人材の育成に努めています。園に適した人材を必要に応じて補充するよう努め、次世代の人材を育てるための指導にあたり、働きやすい職場環境を目指しています。そのため、園内研修の充実に努め、法人系列保育園との交流を通じて日々研鑽を図っています。但し、昨今の配慮を要する子どもの増加、社会情勢の変化、認可こども園や小規模保育事業、家庭的保育事業など保育政策の大幅な変化と、市立保育園の民営化やそれに伴うネットワーク化など、保育を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。「保育」そのものに止まらず、周辺環境の状況把握が望まれる今日です。千丸台保育園では、保育士の技術の向上に向けた研修計画に力を入れ、研修受講内容を園全体で共有化を図り、保育に生かせるよう計画を立案中ですが、常に新しい知識を学び得ることに加えて、保育を取り巻く環境も意識に入れ、専門職として一層の研鑽を期待しています。